

# グラニットコート ウォール

## 施工要領書

# グラニットコート ウォール 施工要領

## 適用下地及び下地処理

### コンクリート打放し

- ・コンクリート打放し面は、事前に凸部のサンダー処理及び凹部（段違い・ジャンカ巣穴及びコーナーの欠損部等）の樹脂モルタル補修後、全面を樹脂モルタルまたはセメントフィラーで補修してください。
- ※ セメントフィラー等、セメント分が多いものを使用した場合、エフロッセンスが出る可能性があります。乾きの遅い場合やエフロが出る恐れのある場合は、セメントフィラー施工後にシーラーNを塗布し、充分乾燥させてください。
- ・十分な乾燥時間をとってください。（含水率：10%以下）

### モルタル（内装・外装）

- ・モルタルは木ゴテで整え、金ゴテで押えて仕上げてください。
- ※ 軽量モルタルを使用した場合、エフロッセンスが出る可能性があります。乾きの遅い場合やエフロが出る恐れのある場合は、軽量モルタル施工後にシーラーNを塗布し、充分乾燥させてください。
- ・十分な乾燥時間をとってください。（含水率：10%以下）

### A L C板（外装）

- ・A L C表面が乾燥した状態であることを確認してください。
- ・A L C板の表面はセメントフィラー等で不陸調整を行ってください。
- ・A L C板のジョイント目地は、できるだけ化粧目地としてご利用ください。ジョイント部をつぶす場合は、A L Cメーカー専用の目地埋め材または樹脂モルタル等で目地をつぶしてください。（目地部分はひび割れが発生しやすいので、目地をつぶす場合、何本かに一本は目地を残してください。）

### 改修下地

- ・改修下地の場合は、劣化の状況に応じて、各種下地処理を行ってください。
- ・既存パターンを残して化粧を行う場合は、既存のパターンに合わせるようパターン調整を行ってください。
- ・既存下地の表面状態に応じてシーラーを塗布してください。

### 石膏プラスターボード（内装）

- ・石膏プラスターボードは突き付け貼りし、取り付け釘はステンレス製のものをご使用ください。
- ・平ボード・ベベルボード・テーパーボード等のジョイント及び出隅・入隅にはテープ状の寒冷紗貼り・パテ処理・ペーパー処理し、平滑に調整してください。
- ※ パテは必ず樹脂系パテを使用してください。石膏系パテは塗面の浮き等の原因になりますので使用しないでください。

#### コンパネ等木系下地（内装）

- ・石膏プラスターボードと同様のジョイント処理後、全面をアク止め水系シーラーを塗布してください。

#### ケイカル板下地（内装）

- ・ケイカル板を突き付け貼りし、石膏プラスターボードと同様のジョイント処理後、全面に水引き調整用シーラー（シーラーN等）を塗布してください。

#### その他

- ・押出成形板等の場合は全面にエポキシ系シーラー（シーラーS）を塗布してください。

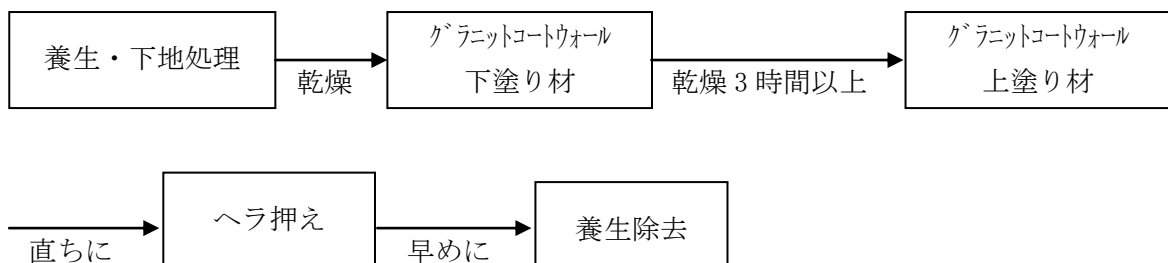
### 養生

- ・施工面以外に材料が付着しないように養生テープ・ビニール等で十分に養生してください。（その際、施工面から数mm逃げて養生してください。）
- ・ペイント塗装面等は、粘着力の小さなテープで捨貼りして養生してください。

### 材料の調整

- ・（グラニットコートウォール）下塗り材は、容器をよく振ってから別の容器に移し替え、適量の水を加え、十分に攪拌して使用してください。
- ※ 骨材が沈降している場合がありますので、十分に攪拌してください。
- ・（グラニットコートウォール）上塗り材は、杓等で軽く混ぜそのまま使用してください。
- ※ ハンドミキサー等の電動攪拌機を使用すると、柄材がつぶれてしまいますので使用しないでください。

### 施工



① 下塗り

- 調整した(グラニットコートウォール) 下塗り材を、下地が透けないように、VPローラーで均一に塗布してください。

(塗布量：0.25kg/m<sup>2</sup>)

② 上塗り

- (グラニットコートウォール)上塗り材を、マスチックローラーで均一に塗布してください。

(塗布量：0.6 kg/m<sup>2</sup>)

③ ヘラ押え

- 上塗り後、直ちに専用ヘラを横方向に動かし表面の押えを行ってください。

※ 押えはできるだけ一度で仕上げ、何度も押えないでください。柄材が潰れる恐れがあります。

《 標準仕様 》

工程	材料	調合 (重量比)	塗布量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗り 回数	間 隔 時 間 (h) ※1		
					工程内	工程間	最終養生
1	グラニットコートウォール 下塗り材	4 kg 2kg	0.25	1		3以上	
	清 水	200~300cc 100~150cc	—				
2	グラニットコートウォール 上塗り材	既調合	0.6	1		追っかけ	
3	ヘラ押え	直ちに専用ヘラを横方向に動かし、表面の押えを行う					24以上

※1 工程間隔は、標準時 (20℃・65%) を想定。

※2 (グラニットコートウォール)下塗材は、(グラニットコートウォール)上塗り材と同系色となります。

使用材料

※ ( )内の数字は1缶あたりの施工面積です

- (グラニットコートウォール)下塗り材 … 2kg/缶(8.0 m<sup>2</sup>) 4 kg/缶 (16.0 m<sup>2</sup>)
  - (グラニットコートウォール)上塗り材 … 5kg/缶(8.0 m<sup>2</sup>) 10 kg/缶 (16.0 m<sup>2</sup>)
- ※8 m<sup>2</sup>セット、16 m<sup>2</sup>セットのセット品になります。

注意事項

- 降雨や降雪が予想される場合、施工時の気温が5℃以下、湿度が85%以上、結露が考えられる場合、風の強い日は施工しないでください。
- 施工に際しては、風や直射日光を防ぐためにシート養生を行い、施工準備をしてください。
- 材料は凍結、直射日光を避けて保管してください。
- (グラニットコートウォール)上塗り材を施工の際は、できるだけ同一ロットを使用してください。別ロットの製品で塗り継ぎ等する場合は、材料を混ぜて使用してください。
- (グラニットコートウォール)上塗り材は、ハンドミキサー等の電動攪拌機を使用すると、柄材がつぶれてしまいますので使用しないでください。

- ・施工面積が大きい場合は、塗り付けとヘラ押えを分担して、スムーズな施工を行ってください。
- ・ヘラ押えは必ず同一方向に押えてください。一面のなかで縦や横方向に押えを行うとムラになります。
- ・水切り下端、きり付け部分などローラーが入らない部分はプラスチックのコテで(グラニットコートウォール)上塗り材を塗布し、乾くまでにその部分の面を仕上げ、塗り継にならないように仕上げてください。
- ・使用した器具は乾燥しないうちに水洗いしてください。
- ・塗り残しやムラが出てしまった場合は、(グラニットコートウォール)上塗り材が乾燥してから塗り重ねてください。タッチアップや塗り継ぎが可能です。

《 下地等に関する注意 》

- ・下地は十分に乾燥していることが必要です。表面の弱い下地は下塗り材等で補強してください。
- ・錆の出る恐れのある箇所には錆止めをしてください。
- ・アク・シミの出る恐れのある箇所にはアク止めをしてください。
- ・下地の汚れ（レイトランス・油分等）は完全に除去してください。
- ・欠損部は樹脂モルタル等で部分補修してください。
- ・シーリング部の上も合わせて施工する場合、シーリング材の種類としてはノンブリードタイプのシーリング材のご使用をお勧めします。